



河合 秀和

### 「明るい展望 でない状況」

総選挙の結果は「承知の通り。このような事件については、時々刻々に開票結果を伝えてくるテレビ、ラジオ、朝夕に情報を整理して教えてくれる新聞の迫力は大き

い。当然のことではあるが、週刊誌は週遅れ、月刊誌は月遅れにならざるを得ない。しかし、「後のものが先に立つ」という言葉もある。遅れて走っているものが、先頭走者よりもかえって先を見通すこともできるはずである。

いる。高森賢二と河合秀和の対談「崩壊するか自民一党支配」では、高森が「国民には、野党よりましだ」としている自民党に安定多数を与えれば、何をするかかわらんという不安感がある。一方、野党のほうには中道と社共の分極化が進むということになる。これからの日本の政治は、有権者も選民に迷うというような伯仲状態というものが続いて、決定的な方向が出ない。そのために、本来解決

## 総選挙の結果を分析

# 伯仲が「革新的」効果

綿貫

すべき政策課題が解決できない。そういうあまり明るい展望がないう状況が、しばらく続くような感じがします」と語っている。

同じ特集の編貫政治「保守の時代」の革新的選択は、「一方で、かたがて部分迎合を唱えた首相自身が「安定多数」を目指して解散を行い、しかも、安撫な政府を

一人にやる気を使わせるような仕組みになりつつあることはたしかな事実である。歴史上の事実としていえば、江戸時代にはどの階級もすべての価値を独占することではなかった。武士は名譽を独占したが金はなかった。町人には

「革新」効果をもたずかもしないという。他方、林になつて、急激な変動、強力な政権を歓迎する層に、一番高く、ともに「四〇」だつて、去農、工、商と身分がはさまらなかつた。武士は名譽を独占したが金はなかった。町人には



綿貫治氏



白鳥令氏

表の世界で身動きがつかない若者たちは、ちよつと元氣のあるものなら、車、万引、セックスと裏の世界に走る。新聞の報道でおそらくだれでも知っている青少年問題のすべてが、一つの連関の中でしっかりと得心のいくように報告されているのである。おそらく現実には、若者たちの絶望しているほどには固定されては、たんに増税による財政再建でなく、税金を集め税金を分配する仕組み、つまり汚職や金権まで含めた政治全体のあり方が問われている。選挙については、編貫のいうようにこれまでの集票組織と選挙区制が政治構造の組み替えを国民に問うにふさわしいかという問題であり、教育については点数二元主義というあり方が、つまり全体としての仕組みがいたるところで問われるようになってい

問われる点  
数一元主義  
問題の若者層については「世帯がごとしに入って三度目の特集を組んでいる。西欧、東欧、アメリカの若者たちについての報告はそれ自体としては面白いが、佐

「沖繩」「南北」で問題提起  
「世界」の特集「八〇年代の沖繩」もそのような関心から出発しており、西川潤「日本の内なる南北問題」、玉野井芳郎「地域主義と自治体」「憲法」も、これまでに

論じられてきた南北問題、あるいは